

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

公明党

代表者名

畑尻 宣長

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 3年 5月 6日提出

活動年月日	令和 3年 4月 15日 (木) ~ 4月 16日 (金)	
氏名	野島さつき 土谷直樹	
用務先 及び 内 容	1 4月15・16日	用務先 JIAM全国市町村国際文化研修所 (オンライン受講) 内 容 令和3年度第1回市町村議会議員特別セミナー 地域を元気にするまちづくり
	2 月 日	用務先 内 容
	3 月 日	用務先 内 容
	4 月 日	用務先 内 容
	備 考	



政務活動調査報告書

受講日	令和3年4月15日（木）、16日（金）
研修場所	全国市町村国際文化研修所（オンライン受講）
講座名	令和3年度 第1回市町村議会議員特別セミナー
受講者名	野島さつき 土谷直樹
研修のテーマ 講師	1日目 【講義1】「人口減少・ポストコロナ社会のデザイン」 京都大学こころの未来研究センター 教授 広井 良典氏 【講義2】「コロナ禍のピンチをチャンスに変える自治体になるためには？」 奈良県生駒市 市長 小紫 雅史氏 2日目 【講義3】「これからのスマート農業～新しい地域農業の創生～」 北海道大学大学院農学研究院 教授 野口 伸氏 【講義4】「令和の戦国武将・今、女将が地域と共に立ち上がる」 「さぎの温泉旅館竹葉」女将 小幡 美香氏

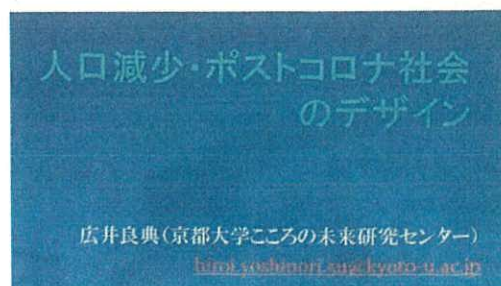
日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、「地域を元気にするまちづくり」のテーマのもと、様々な分野の第一線で活躍されている講師の講義から、改めて地域を見つめ直し、地方議員に求められる役割について学びました。

<人口減少・ポストコロナ社会のデザイン>・・・広井良典氏

◇人口減少社会のデザイン

若い世代のローカル志向

- ・リクルート進学総研調査（2016年）⇒大学進学者の内、47%が「地元に残りたい」と考えて志望校を選んでいる。（2009年比 +7ポイント）
- ・同調査（2019年）⇒大学進学者の地元残留率44.4%（2008年比 +2ポイント）



- ・文部科学省 2014 年調査⇒高校生の県外就職率 17.9% (2009 年比 -4 ポイント)

首都圏の急速な高齢化

- ・東京圏への「転入者数」は 1990 年代半ばから「横ばい」ないし「微減」
- ・「転出者数」は着実に減少・・・「高齢化」(高度成長期に上京し家庭を築いた人たちが定住)

「日本の地域別将来推計人口」2013 年 3 月推計によると、2010 年→2040 年で 388 万人の高齢者が増加

◇AI を活用した、持続可能な日本の未来に向けた政策提言

都市集中型シナリオか地方分散型シナリオかを AI が予測 ➡ 働き方・住まい方・生き方の「分散型」社会へ

政策要因例・・・共働き世帯の増加、サテライトオフィスの充実、女性の給与改善、農業を含む地方における次世代の担い手の維持・育成支援、仕事と家事の両立、男性の育児休業取得率の上昇に関する政策等

◇歩いて楽しめるまちづくり「ウォーカブル・シティ」・・・高齢化をチャンスに

◇情報から生命 (Life) へ

「生命」関連産業の重要性の高まり・・・健康・医療、環境 (含 自然エネルギー)、生活・福祉、農業、文化

◇若者支援の重要性・・・人口減少の改善や経済活性化にも寄与

◇持続可能な福祉社会

- ・日本は元来、分散的で地域の多様性が豊かな社会。
- ・ローカルから出発しつつ、環境・福祉・経済が調和した「持続可能な福祉社会」のモデルを先導的に実現、発信していくポジションにあるのではないか。

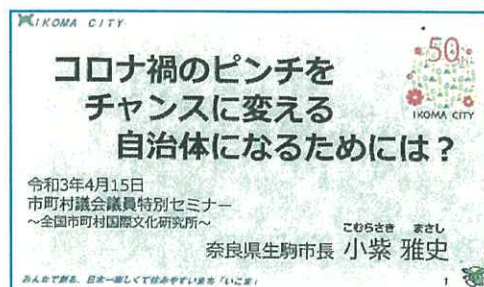
<コロナ禍のピンチをチャンスに変える自治体になるためには？>・・・小紫雅史氏

◇コロナによる自治体への影響

医療面・産業面・社会面

◇ピンチをチャンスに

- ・地域活動の大切さを再認識
- ・地元の魅力再発見
- ・ICT の活用と広がり



- ・ステイホーム・・・現役世代を地域活動に参加してもらう

◇生駒市の先進的な取組

- ・100の複合型コミュニティづくり
最大の移動・生活支援→市民・事業者・市の協創で実現
- ・いこま市民パワー株式会社
経済・・・電気料金の地域内循環 事業拡大による雇用拡大
社会・・・収益は市民サービスやまちの活性化のために活用
環境・・・新たな再生可能エネルギー電源の獲得 エネルギーの地産地消
- ・「プロ人材」の採用
優秀な人材を採用するための環境整備

◇議員に望むこと

「現場力」「専門性」「地域愛」「発信力」

<これからのスマート農業～新しい地域農業の創生～>・・・野口 伸氏

◇スマート農業実装によって期待される効果

- ・労働力不足の解消
- ・プロ農家の技術の継承⇒新規就農者の育成
- ・生産の低コスト化
- ・農産物の品質向上・収量増
- ・「プロダクトアウト」型から「マーケットイン」型
農業への転換
- ・農業の魅力アップ⇒青年層の新規就農促進

これからのスマート農業
～新しい地域農業の創生～

北海道大学大学院農学研究院
ビークルロボティクス研究室
野口 伸

◇農業の自動化・ロボット化

- ・自動走行農機（ロボット農機）・・・労働負荷の低減
- ・遠隔監視による無人作業システム・・・作業能率が格段に向上
- ・AI分析基盤・・・栄養状態・病虫害の超早期検出
- ・シェアリング・作業受託サービス・・・一人のオペレータが数多くのロボット農機の
作業を監視

◇今後の展開

- ・小型ロボット・・・中山間向け、農業ドローン、追従型運搬ロボット
- ・スマートフードチェーン（生産、流通、消費を繋げる）・・・効率化+食品ロス削減
- ・スマート露地野菜・スマート果樹生産
- ・スマートフィールド・スマートアグリシティ・・・農地環境、ネットワーク環境など

<令和の戦国武将・今、女将が地域と共に立ち上がる>・・・小幡美香氏

◇「竹葉」を知ってもらうために

- ・自分にあるもの＝愛・元気・ご縁
- ・2003年からブログ⇒伝え続ける
- ・元来、竹葉が持つ強みとは何か＝仕出し料理
コロナ禍でのテイクアウト、通販
- ・メディアとSNSフル活用
TV・CM出演、YouTube、Instagram・Facebook
Twitter・Clubhouse



◇地域活動

- ・安来駅どじょうすくいお出迎え隊
- ・しまね観光PR大使
- ・JR西日本 山陰いいもの探県隊
- ・島根大学アドバイザー
- ・JHMA 認定ホスピタリティ・コーディネーター（ワンランク上のおもてなし）
- ・マクロビオティック・コンシェルジュ（精進料理⇒健康長寿法）

◇武道論から見られる思想

- 『守』→受け継がれたものを守る
- 『破』→現代に合わなくなったものを捨て去る、省く
- 『離』→新しく独自の工夫を加え、今までの型を超える
- 『創』→地域創造、未来創造

◇女将の思い

- ・プレイヤー兼、地域プロデューサー
- ・独自のサービス、おもてなし
- ・観光業からイノベーションを
- ・島根の個性魅力再発見

<所 感>・・・野島さつき

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない中、地域経済の落ち込みや人々の疲弊感が払しょくできず、まちの元気を取り戻すためのヒントを求め、受講しました。

4人の講師の方が、それぞれの立場で取り組んでいることを、大変わかりやすく講演していただきました。

広井教授の講演の中で特に感じた点は、若者支援の重要性です。人生前半の社会保障や公的教育支出の国際比較で、日本の低さが目立っており、子ども・若者等への支援が極めて低いことがわかります。高等教育における私費負担の割合が、OECD 平均 30.9%に対し日本では 67.5%と大変大きくなっており、10 代後半から 20 代の貧困率も高まる中、高等教育進学への平等性を確保する若者支援は喫緊の課題といえます。20 代の生活保障や所得水準は、結婚や出生率にも大きな影響を与えます。持続可能な福祉社会を考える上で、将来世代への投資にも力を入れていきたいと思っています。

小紫生駒市長の講演からは、地域資源（人材も含め）をいかに活かしていくかを学びました。公共でできることには限りがあることをもっと市民に発信し、市民ができることは市民にやっていただく、専門家の力が必要なところはお願いするなど、行政・市民・専門家・事業者などが協創していくまちづくりは、大いに参考にしたいと思っています。また、市の変革のため、新しい発想を持ち、「攻め」の事業創造と成長促進を実現できる外部のプロ人材を登用している点も、市長自らが、公募により副市長に就任された経験からの発想だと思いました。議員に望むこととして、現場力、専門性、地域愛、発信力を上げられました。自己研鑽を怠ることなく、発信力にも力を入れていきたいと思っています。

野口先生の講演からは、担い手不足で離農する方が増える中、ICT や AI を活用したこれからの農業のあり方を学びました。今後も技術革新が進み、ロボット農機の小型化や低コスト化が実現することで、農家同士のシェアリングや作業受託サービスは大いに希望がもてると 생각합니다。スマート農業を普及していくためにも、フル活用できる次世代人材の育成、地域リーダーの育成、担い手であるユーザーの育成など「ヒト」への投資も同時に進める必要性を感じました。

最後に、「どじょうすくい女将」小幡さんの講演では、何が自分の武器になるのか、地域の特性を知り、活かしていく、発信し続けていくことの重要性を学びました。何があってもご縁を大切に、明るい笑顔で行動し続ける姿に、勇気と元気を頂きました。「守」「破」「離」「創」の考え方は、大変参考になりました。

講演を通し、少子高齢化で人口減少社会にあって、SDG s で掲げる「誰ひとり取り残さない社会」を築き上げていくためには、行政に依存するのではなく、多くの人たちの連携が必要であり、地域が培ってきた多様性をもっと活かしていける仕組みづくりを考えていく必要があると感じました。今何をすべきか大局観に立って考えていく力を身に付け、現場の声やニーズを行政に届けて行くとともに、自身の活動や議会で決定した市の施策などをもっと積極的に発信し、多くの方と意見交換しながら共にまちづくりを推進していきたいと思っています。

以 上

〈所 感〉・・・土谷直樹

議員になり半年になりました。コロナ禍の中、日々目まぐるしく情勢が変化しております。

今回の研修で、「人口減少・コロナ社会のデザイン」と題して京都大学こころの未来研究センターの広井良典教授による講演を拝聴しました。若い世代のローカル志向から地域への分散が進んできている。持続可能な政策提言として、これからは女性の活躍や、多様な働き方が重要となってくるとのことでした。

また、奈良県生駒市の小紫雅史市長は、Diversity 実現に向けての先進的な取り組みをされています。「移動・生活支援」を市民・事業者・市の協創で実現し、さらに「観光企画、ICT 推進、地域活力創生の成長促進」を実現できる外部人材を副業・兼業・テレワークという形で登用もされています。岡崎市も「コミュニティとまちづくり」として東岡崎駅周辺、岡崎城周辺において「歩いて楽しめる街」(QURUWA 戦略)を推進することが重要と思われます。

北海道大学の野口伸教授による「これからのスマート農業」では農業の労働力不足・生産力向上に向けてロボット化の課題を明確にし、大規模農業だけでなく、中山間地域向けや野菜や果樹でも活用できる小型ロボット、生産+流通+消費をつなげる構想など、すべてが未来を先取りした研究をされています。岡崎市の平地・中山間・野菜・果樹でのスマート農業に活かしてまいりたいと思います。

「竹葉」小幡美香女将の「女将の経営戦略」では、「どじょうすくい女将」を自ら地域プロデューサーとしてメディア・SNS・ご縁をフル活用し、難局を打開されていました。コロナ禍でも最高の笑顔で活躍されており、とても参考になりました。

研修を通して感じたのは、日頃からの良好な人間関係、また問題点をいろんな分野からの意見を取り入れながら進めていくことが大切であると感じました。今後の活動に生かしていきたいと思います。

以 上